

# サポート通信



## 千代田まちづくりサポート、14グループへ助成を決定!

### ふしん 普請部門も2グループが一次審査通過



2016年7月2日(土)、第16回千代田まちづくりサポート公開審査会が、千代田区役所の1階・区民ホールで行われた。区民ホールでの実施ははじめて。今回は「一般部門」、「テーマ部門」、「はじめて部門」に加え、新たに(一財)民間都市開発推進機構の「住民参加型まちづくりファンド支援事業」の拠出金を活用した「普請部門」を設けた。

この部門は、空室のリノベーションによるまちの拠点づくりや歴史的建築物の保全など、ハードの改修を含めて活動に対して助成を行うもので、助成金額は最大500万円と大きい。そのため、一次審査を定額10万円で拠点づくりなどの計画を策定していただき、その実効性を確認してから二次審査で本格的な実施を行うこととなる。

「はじめて部門」については、トライアルといいながら一般部門と同じ審査の厳しいではないかとの意見もあり、今回からは書類審査と審査会出席により助成を決定することとなった。「テーマ部門」は、千代田区がテーマを設定し「ちよだマンションカフェ」とのテーマで、1グループの応募があった。

事業の運営についても新たな取組があり、市民による自主的で自立的な運営を試行する観点から、前回のテーマ部門で助成を受けた「千代田まちづくりサポーターズネオ」と、十年以上サポート事業を裏方として支援してきた助成グループOBの「千代田まちづくりサポーターズクラブ」が母体となって、非営利の一般団体である「千代田まちづくりプラットフォーム(略称:まちプラ)」を設立し、協働で運営を行うこととなった。

午前のプレゼンテーション・質疑応答は、はじめて部門を除く16グループ。

午後の審査の結果、一般部門10グループ、テーマ部門1グループ、はじめて部門1グループ、普請部門(一次)2グループの全14グループの助成が決定した。

途中、千代田区長のあいさつがあり、サポート事業と応募グループへの期待が述べられた。

助成を受けた各グループは、11月19日の中間発表会に向けて、様々な活動がはじまる。

### 目次

#### 【第16回助成申請グループ】

##### 【一般部門】(2回目)

ユメラボ	2
神保町コミュニティプラザ	2
神田暮らし探検隊	2
神保町映画祭実行委員会	3

##### 【一般部門】(1回目)

麴町小学校ワーク・わく・クラブ応援団	3
Sophia Information For Visitors	3
神保町未来会議・重ね囀ワーキンググループ	4
PCN 秋葉原 Assemblage	4
神田組	4
グリーンネイバーフッド千代田を目指す会	5
文人通りギャラリーカフェ	5
神田プロレス	5
世界に広めるらくがきPROJECT	6

##### 【テーマ部門】(1回目)

内神田を面白がる会	6
-----------	---

##### 【はじめて部門】(1回目 ※書類選考)

オクトパシー	6
--------	---

##### 【普請部門】(一次審査)

千代田ネコビル lab	7
海老原商店を活かす会	7
審査会委員講評・総評	8~11

第16回千代田区まちづくりサポート 審査評	11
-----------------------	----

一般社団法人千代田まちづくりプラットフォームについて	12
----------------------------	----

賛助会員一覧	12
--------	----

### 審査会委員 紹介

会長	新田 英理子 認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 事務局長
副会長	中島 直人 東京大学大学院工学系研究科 准教授・工学博士
委員	片岡 勝吾 麴町五丁目町会 副会長
	後藤 禎久 市井人(まちびと)・齋藤月峯に学ぶ会 会長
	江口 貴大 興産信用金庫お客様支援室 次長
	朝比奈 ゆり 東京ボランティア・市民活動センター
	小川 久美子 千代田区 地域振興部参事・コミュニティ総務課長



編集・発行:公益財団法人 まちみらい千代田 まちづくり推進担当

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4F TEL.03-3233-7556 FAX.03-3233-7557

https://www.mm-chiyoda.or.jp E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp

## 1

## 千代田RE:DESIGN計画

〔ユメラボ〕 一般部門・2回目



めていきたい。

千代田区商店街連合会より、まち歩きマップの製作を依頼され、スタートは調査から始めた。実際にまち歩きをし、課題があれば掘り起こして、まちのニーズを引き出すような「ものづくり」をする。

また、学生の視点で、新しい空間の使い方も提案していきたい。地域のイベントでの活動を媒介にして、他のジャンルの地区や人々との新しいつながりも更に生みだしたい。

去年は身近な物を新しくデザインすることを通して千代田区内の「ものづくり」のプロジェクトを提案した。今年は更に継続的に展開し、+αデザイン企画として、まさに新たな関係を生み出し、まちの魅力を見つけて高

Q:マップづくりは手段?ものづくりの対象?

A:マップ自体はきっかけづくりで、その先に物や場づくりの提案が目標。

Q:マップの製作は助成金でつくるのか?商店街連合会とのつながりは何で生まれたのか?

A:商店街連合会から費用は出るので、助成金は使わない。つながりは震災の前、神田夢祭り卒業制作の展示会をしたのが始まり。

Q:7月の調査活動はどこで商店街で行ったのか? 具体的な今年の成果物は何か?

A:お茶の水、神田、神保町等が中心。商店街の入り口に看板を要望され製作し、神保町映画祭の皆さんと協働して、すずらん祭りで会場のオープンスペースや椅子をつくった。夢祭り再現の声もあり、可能性を探りたい。

## 2

## 神保町の書店、観光、グルメ情報発信基地を作ろう!

〔神保町コミュニティプラザ〕 一般部門・2回目



は共立女子大教授のレクチャーを受けて縁の地を辿る。漱石が通った地元の旧錦華小学校等を訪れたり、岩波書店では漱石の初版本を見せてもらう。「漱石と能楽」では、能楽師による解説と実演のイベント開催。神保町古書センター内のカフェなどで漱石作品の朗読会も開く。

更に、漱石に因んだ「ナゾキ街歩きゲーム」を実施。参加者が神保町のまちを歩き、岩波ホール前広場にテントを出してゲームとグ

ルメを楽しむ。昨年「神保町コンシェルジュ」チームを発足、神保町まち歩きを企画、実施した。今年は夏目漱石没後百年なので漱石と神保町をテーマにまち歩きツアーやイベントを催す。

「漱石青春の地を歩く」で

ルメを楽しむ。

今後もまち歩きとコンシェルジュ育成の勉強会を続け、知見を広めたい。

Q:参加者はどんな人を考えているのか?

ナゾキ・ゲームとはどういうものか?

A:本や古書店だけでなく、風水ツアー等で興味を促し、より神保町に親しんでもらう。ゲームは歴史的建物の色、窓の形、暗号、まちが失ったものを探してつなげて行くとか。いろいろな工夫により若い人たちにも参加してもらえると期待している。

Q:知られざる神保町の魅力の発見と、グルメ紹介の情報は、どう結びつけるのか?

A:知的な好奇心を満たす文化文明の紹介と、おいしい神保町、漱石にちなんだ明治時代の雰囲気のある老舗グルメの紹介。素敵なカフェでの女子ツアー等、アカデミックに寄り過ぎないようにすると両立できると考えている。

## 3

## 子供のまち体験を通じた地域資源の発掘・共有と、20年後の担い手づくり

〔神田暮らし探検隊〕 一般部門・2回目



にアプローチするため、今年はファミリー層に着目して活動する。

地域の子供を見守るという要望に応じて子供のまち体験ツアーを実施。それによって親世代が地域とつながる。また子供が自分の過ごしたまちの思い出を持つことで、将来、まちに定着しやすくなる。昨年から継続的な活動で地域資源の発掘も模索して行く。

具体的には、①ファミリー層の暮らし調査。②子供のまち歩きツアー。地域の新規住民を対象に子供を媒介に大人もつながる。③ツ

昨年から20年後のまちの担い手づくりをテーマに活動。課題の1つは地域資源の減少。2つ目は、まちづくりの新たな担い手の育成。昨年は新旧の住民のつながりをつくり、住民と協働での冊子づくりをした。より多くの住民

アーのまとめに成果物を作成。模型などをつくり、まちを深く理解する。④作った模型や調査結果等の展示会を開く。親世代や地域住民が集まり、交流の場づくりをする。

最後に、⑤活動紹介の冊子制作をする。展示会に来られなかった住民にも広く伝えたい。

以上の活動で、子供のまちづくりへの思いを向上させていきたい。

Q:マンションの住民にどうアプローチするのか? 去年は冊子を全世帯に配ると言ったが、どうやって配布したのか?その反応は?

A:チラシをつくり、マンションの管理人にお願いしてポストに。今年は学校にも働き掛ける。昨年は、お店に置いた冊子がすぐに無くなり、関心の高さを知った。

Q:ワークショップでつくる模型とは何か?

A:まちの絵や模型、紙でつくる工作等。



## 4 ミニシアターの街・神保町から「映画文化振興」と地域活性化を目指した映画祭を行う 〔神保町映画祭実行委員会〕 一般部門・2回目



幅広い活動で協力団体も増えている。

シンガポール映画祭とのコラボや千代田区の後援も決定。団体の信頼度を高め、昨年以上の活動が予想され、経済的基盤が必要と助成に応募した。第2回神保町映画祭は12月に開催を決定、公募作品の募集も7月1日で終了。今年は家族で楽しむ映画祭にしたい。

第30回神田すずらんまつりに参加(上映会、アニメ制作体験ワークショップ)。この開催は、学生団体ユメラボさんにご協力頂いた。まち

「映画づくり」と「まちづくり」を融合した市民活動として映画祭を運営する。本年は設立3年目で組織の転機でもある。5月には地域の皆さまにご協力頂き実行委員会も発足。月1回の定例会議を開く。学生チームも設立し、

サポに参加すると、資金的な助成のみならず、助成団体の交流やコラボができる。

本年は足元を固めるため、組織構成や規則の文章化、マニュアルの整備をしたい。最終2017年度の活動展望は自立の具体的な進路を見極めること。公募のエントリー料以外の安定収入を得る力をつけ、映画祭自体をレベルアップし、持続した活動をする。

Q: 広告宣伝料に、賞金とあるがどれくらいを考えているか?

A: グランプリにだけ、5万円差し上げる。

Q: 3期目以降、公募エントリー料以外の安定的な収入とは、何を考えているのか?

A: 企業のスポンサーや会員もつりたい。まだ営業していない。まずお金を託して下さる方に安心して頂ける体制づくりを。映画祭の構成と内外のイメージづくりの段階。

## 5 私たちの麴町!! 劇的ビフォーアフター 〔麴町小学校ワーク・わく・クラブ応援団〕 一般部門・1回目



持ち帰り、まちを素敵にするアイデアを考え、グループ毎にそれを発表しました。今日は、それを基にみんなで考えた提案を発表します。

①遊びの場所や憩いの場所はもっと必要なので、私達がつくる。②2020年に東京オリンピックがあるので、日本の文化を知ってもらう。③千代田区には緑が少ない。もっと多くの生き物が住みやすい場所が必要です。

私達は自分達の住んでいる麴町がもっと素敵に楽しくなることを考えました。そこで自分達のまちを知るためにまち探検にでかけ、良い所や悪い所をたくさん見つけました。

それをメモして小学校に

この提案を実現するためのまちづくりイベントを開催します。9月4日(日)、会場は、番町小学校と番町の庭です。(子供たちからの提案で、広場に置くベンチと日本の文化を知る遊びの場をつくる。)

Q: 何が一番よかった? 悪かった?

A: 悪いのはタバコのポイ捨てがあったこと。良い所は坂道に手すりがついていた。

Q: 普段、どういう所で遊んでいますか?

A: 公園や校庭等です。

Q: 大学生がイベントを企画するのですが、それまで子供達と、どう交流して行くのか?

A: 子供達の提案書には現地のスケッチもある。物づくりや遊びのプロジェクトに詳しい学生達も加わり、そのスケッチに近い物や場所をつくることを考えている。

Q: 日本文化を知る遊びとは、何ですか?

A: けん玉やお手玉、メンコ、カルタなど。

## 6 Tokyo Disaster.Com (災害時における外国人観光客を対象とした避難誘導と情報発信) 〔Sophia Information For Visitors〕 一般部門・1回目



情報を伝えることを考えた。

皆が安心して暮らせるまちを目指し、災害時だけでなく平時の時も情報発信することで、まちづくりの一翼を担えればと思う。活動内容は、①災害時に外国語を使って発生直後の情報伝達とサポートを迅速に行う。避難所での通訳、援助物資の分類や配給も行う。

②平時には外国人や地域住民を対象に災害に関する講演会やイベントを定期的に開催。防災へのアンケート収集と分析、結果の公

表。ホームページやブログで情報を翻訳して発信し災害時の備えとする。草の根防災意識の向上を図りたい。

首都直下型地震への対応も区と連携して行い、将来的には活動を継続してNPO法人を立ち上げたいと考えている。

Q: 10万円の会場費は大学からの支援や、学内ホールの使用等ではできないのか?

A: 5月に学内のサークルとして申請がおりたが、学生だけでなく一般の人参加する場合どうすべきか考えており、更に検討する。

Q: まちの状況をよく知って行ってほしい。ただ翻訳するだけではもったいない。

A: 事前に調査して危険な場所を知り、分析する。また留学生に日本の文化も伝えたい。



店、各種専門店が並ぶ。

神保町には、古地図、古写真、絵葉書等の豊富な資料がある。江戸時代は商業地ではなかったが、明治以降に発展する。その過程が専門店街に特化して変化したことを調べて行きたい。このまちを知り、産業を根付かせていくのに必要なことを学ぶ。

関東大震災の時に靖国通り商店街は消失し、古書店はなぜか神保町に残った。それがなぜかを調べて行くと、はっきりしたことは解って

いない。それらを調べれば今後のまちの発展に役立つと考える。データベースをつくり、まち歩き講座を開催。年度末には成果をまとめたリーフレット500部ほどを制作し、次年度以降は、更にまちの変遷が解る冊子やデジタル展示物の制作を目指す。

まち歩きにも役立てたいと思っている。

Q:大正2年の神田三崎町の火事の後に関東大震災が起きた。三省堂は三崎町の火事でも残った。専門店はいつ頃できたのか?

A:靖国通りの拡張等も調べていく。九段から駿河台に中心が移ったことが解り、データベース化して他の団体にも活用してもらおう。

Q:昨年未からの活動での課題意識は何か?仕事のかたわら活動をする理由は?

A:課題は商店が代替わりする時に残れないこと。いかに今後百年先まで店を引き継いで、残せるか。産業を残しながらこの場所で暮らしていけるか。古書店などで家族経営をやってきたが、このまちでこの先も生きていけるか。そういう思いがつのり行動した。



国内外の来訪者に指導をしているが、千代田区の人に知ってほしいと子供達にプログラミングの楽しさを学ぶ場を提供。神田祭りや桜祭りでは千鳥ヶ淵の桜をイメージした電子部品アクセサリも製作し販売した。

2020年から小学校でのプログラミング教育の必修が決定。区内の小学校で電子工作・プログラミング教室を開講したい。あわせて電気街のフィールドワークで歴史を学び、電子部品の専門店を見学、体験

する活動もする。アキバの魅力を知ってもらい、愛着をもてるようなまちづくりに貢献したい。

Q:電子部品開発者がメンバーにいるが、助成金は何に使うのか?

A:必要な電子部品は、すべて秋葉原の電子部品屋で購入できる。電子工作キットや消耗品はPCNで用意する。

Q:フィールドワークのアウトプットとは?

A:秋葉原を多くの子供達に知ってもらうためにスマートフォンやパソコンがどうつくられていくかを小学生を対象に教える。自分のつくった物がどこで販売されるか見たり、無線もいろいろあるのを知り、楽しんでもらいたい。

Q:この活動のきっかけは何か?そのモチベーションはどこに原点があるのか?

A:きっかけは小学生の時に父に秋葉原の電子部品の店に連れて行ってもらったこと。部品の並んだ棚が雨玉の並んだお菓子屋さんのように素敵に見えた。その思い出が原点だ。



を世界に発信したいと思った。

区内をロケ地とした動画撮影により、現在の歴史的価値のある景観を静止画像と共に残す。インターネット配信も行い、データベース化する。またロケーションサービスの窓口を設置し、ロケ地協力店舗の管理、情報共有による撮影招致やロケツーリズムへと展開していく。

更に、若手クリエイターや役者の育成、映像制作者向けワークショップの開催を実施する。神保町映画祭宣伝女子グループを結成して、来

年度の映画祭公開にむけて活動する。

地域振興のための資源としての千代田区のロケーションを活用したい。

連携協力団体は、神保町映画祭、首都圏映画サークル連合、書泉グランデ等。

Q:活動の主なテーマは何か?

A:撮影した映像をデータベース化して、ロケーションサービスの窓口となる。

Q:神保町映画祭との関連は?

A:始まりは共にやったが、神保町映画祭はコンベンションがメインで専門的な知識が必要。今年から別に独立してやることになった。

Q:スケジュールを見ると11月までしか書いてないが、そこまでの助成でいいのか?

A:記載してないが、景観ビデオの制作やYouTube配信。他にも四季の千代田のまち並等を3月まで映像制作は続ける。





して議論し、知識を構築する「環境まちづくりダイアログ」を月1回実施する。

また会場の場に来なくても参加できるプラットフォーム（WEBグリーンマップ）の構築をして、いつでも誰でも千代田のグリーンスポットを投稿できるようにする。更に誰でも参加できるユニバーサル自然観察会を開き、緑の多い千代田の資源、価値を伝え、障害を持つ方や海外の方にも声をかけやすいようにする。「みんなで作るまち

昨年「エコまちツアー」を開催。環境への取り組みは、まちの活性化につながる。住民や在勤者、学生、障害を持つ方などいろいろな方が関わった方が質があがることを実証したい。障害にもいろいろあり、意見を交換

づくり推進協議会」とのコラボで実施する。

秋には、皇居東御苑で自然観察会を開く予定。外堀通りの資源も活かしたい。

障害のある方も外国人も五感を活かして緑に触れたり、鳥の声を聴いたりして楽しめる。パラリンピックの時には選手と一緒に参加できたら楽しいかと思っている。

Q:種々の活動の中で、一番大事なのは?

A:自然観察会。まず皇居東御苑で行う。対象は千代田区内の障害を持つ方や一般の住民。大きな活動は環境まちづくりダイアログ。高齢者が学生かなど対象は絞らず、幅広くいろんな方の声を収集して提案し、2～3年後にまとめて成果物を出していきたい。

Q:ダイアログは8回とあるが、参加者は毎回異なるのか?

A:それぞれ各回に来る方が違うことで、いろんな意見が集められると思う。



マンション等共同住宅に住む若い世代。そのギャップを越えて交流する場と機会が少ない。マンションが急増する中、今年は「周知と集客」をテーマに、文人通りのカフェで毎月1回、マンション1棟毎に居住者の交流の会を開くことにした。大型マンションには多い所では1棟に100家族くらいが暮らしている。その人達が共通して興味をもつようなテーマを選んで会を開く。

例えば、土曜日の午前中に、講師を招いて、レクチャー、演奏、鑑賞

おかげさまで、去年はランチ会として活動できた。今年は更に広めようと、その経験を踏まえ、反省も込めて、同じカフェでもギャラリーカフェの会として活動する。

番町・麴町地域は旧住民は高齢化、新住民は大型マ

などをして、その後にお茶を楽しむ。この地域に縁の文人、歴史上の人物等を紹介したり、年に1、2回は合同の会（クリスマスや桜の時期に）を開催して交流を深める。

このカフェが憩いの場となり、地域住民のよりよい居場所づくりを目指して、継続、発展して行きたい。それが楽しく住み易いまちになる一端を担うことになればと思う。

Q:マンションの住人等、限られた地域の方だけを対象にするイベントか?

A:今年は六番町の住人をまずは顔見知りになることを中心に、そこから広げて行う。

Q:実際にマンションの方々にどのように周知をして集客するのか?

A:私達も住んでいる地域なので、マンションの知人を中心に口コミで知らせ、チラシもつくり許可を得てマンションに配る。



も補佐してくれる。

土曜日、日曜日の神田エリアのイベント会場や神田の名所、空き地、広場等でちびっこプロレス教室、スポーツ体験を入場無料のイベントとして行っていきたい。

10月には、神田スポーツ祭会場（小川広場）にて開催予定。開催時には地域の飲食店と連携し地元グルメの屋台を出し、プロレスの試合も実演する。地域の名産品等をご当地レスラーの覆面などにデザ

神保町でカレー屋を営む代表と同店で働く現役プロレスラーを中心にまちおこし、特に親子連れの参加を目的に、昨年9月にご当地プロレス団体として結成した。地域で子供むけお話ユニットとして活動しているメンバー

インして登場させ、紹介（神田カレーマスク等）したい。その様子を神田プロレスの上映会として来年1月には地域の飲食店やイベントスペースで開きたい。

親子連れで集まり、子供もリンクに上がりハッスルし、皆で盛り上がる。昨年は神田スポーツ祭会場（東京電機大学跡地）で2日間2000人の来場者があった。今年も、自治体、商店会と連携して、町おこしとしても頑張りたい。

Q:開催予定はどこでやるのか?

A:まちのイベント会場や空地、神田スポーツ祭の広場等。まちの予算でやらせてもらった。今年はスポーツ祭に小川町でやるが、助成金以外の活動。千代田区内で開催を増やしたい。入場無料なので、助成金はリングのレンタル料が要るためお願いしたい。

Q:屋外でやるなら、大雨が降れば中止か?

A:中止する。小雨程度なら開催する。レスラーは子供達に本物のリングとプロレスを見せて体験させたい。



子供達に公園等を貸切にして、チョークでらくがきをしてもらう活動。コンセプトは子供たちに本物のアートを見せ、作品をつくる。最初は僕たち親子2人で始めた。当初は恥ずかしかったが、その内、僕の方がはまった。

今では、お茶の水アートピクニックや全国から依頼が来るようになった。今年で9年目になり、小学校からも依頼される。去年はチルリンピックにも参加。道路を貸し切ったりして、子供達と車にチョークアートを描き、デザインすることもやった。

僕らのモットーは、最後に一緒に掃除をすること。モップや高圧洗浄機で元のきれいな道路、まちにする。去年、バージンロードを描かせてもらったのは印象的な体験で感動した。

これからも子供達に本物のアートを体感させたい。チョークはメーカーから無償で提供されるので、子供達の参加も無料でできる。ただ、今は講師のアーティストも無償で来てくれているが、今後は謝礼を払い、もっとお呼びして子供達と触れ合いたいと思う。

Q:アーティストを呼ぶのはなぜか? また、千代田区でやる理由は何か?

A:最初にお茶の水アートピクニックで、チルリンピックに呼ばれたので、定期的に千代田区内の小学校などでやりたいと思った。美術館に行けばアーティストの絵は見れる。でも、身近なチョークと地面でもアーティストはこんなことができると知らせたい。

Q:チョークで絵を描くプロの人は、普段どういう活動をしているのか?

A:チョークアート教室を開いたり、お店の看板を描いたりしている。既に一つのジャンルになっている。



メンバーのキャリアを活かして地域の課題に貢献し、真剣に面白がる団体。住民の85パーセントがマンション等に住むが、公共施設の充実が利点で、隣近所との関わりをあまり望まない。区や町会との関係も希薄で、マンション住人の声を聴く機会も少ない。

まず居住者に参加してもらう機会と場を2つ設けた。地方出身者が多いので故郷を感じられる企画。①区内にあるNPO法人「日本で最も美しい村連合」と連携し、全国から食材や飲料を集め、ホームパーティのようなランチ会を毎月第3土曜日に予定。会場は内神田のthe C-loungeビルの地下一階。

②課題解決を面白がるプレスト会議。困難なことでも面白いと言え

る力。まちおこしについても習慣や常識にとらわれず、これからのアイデアを皆で共有する。市民、行政、事業者の3者が未来に向けて話し合う。

「お題」(テーマ)は、各エリアにより課題も違うので、関係者にも集まってもらい、其々考える。住民の自主的な集まりでイベント、寝袋シネマ(野外映画祭)などが生まれた。

Q:なぜthe C-loungeでやるのか?

A:キッチン付き広場で、そのメンバーであること。ホームパーティには合っている。

Q:ターゲットは若い人か、高齢者か?

A:働き盛りの世代、高齢者も対象だが、テーマにもよるので、あまり限定しない。

Q:どうやって人を集めるのか?

A:Facebookを中心に、ウェブや区の広報、オフィスの口コミ。課題の周辺住民の方にも声をかける。



現在では、再生不可能と思われる8ミリフィルム等のアナログメディアに収録したものを、フィルムスキャナー等を活用して高品質にデジタル化する。まちに埋もれているお祭りやまちの姿、風景等の映像を持ち主の許

諾を得て動画サイト等にアップする。

その上映会を見て現在の姿と比較したり、それらの情報を共有し、皆さまで共に動画作品をつくっていく。いずれは関連資料のアーカイブをつくりたい。

それと並行して、区の教育委員会に子供達の視聴覚教育のバックアップを提案して行く。今月の19日に千代田小学校のアフタースクールで行うことになった。

引越してきた人にも地域の様子や近代史を見せて、地域に馴染みやすい方法のテキストとして活用する。家庭での家族の会話を増やせるような上映会の開催で、お互いに交流し、映像以外の情報も得て、意識の共有の機会にもなる。

まちづくりサポートに応募することで、さまざまな人々とのネットワークの構築をしたいと考えた。

Q:スケジュール表を提示してほしい。はじめての応募申請でも、大事なこと。

A:皆様のを参考に、作成し提出する。

Q:各家庭にある8ミリフィルムの再生は嬉しいが、活動は他にどんな人とやるのか?

地域の人と何か一緒にやってほしい。

A:子供達に視聴覚教室の前に、映像作りのレクチャーもしたい。その中の素材としても再生した映像を使いたいと考えている。もし地域にそういう映像を使いたい人がいれば提供もしたい。



ラボしている。

後者は神田のシェアスペース。空家になっていた4階建てのビルを改装してシェアオフィス、コミュニティスペースをつくった。25名で運営している。猫好きのための猫ビルの提案をする。猫パークという目玉があり、コミュニティ施設を含んだ猫ビルの計画。長年、猫殺処分ゼロの千代田区と共にやりたい。猫と共存して働き、暮らす場所をつくりたい。

(株)クラウンキャットとFuture House Labの2団体が集まり活動。前者は猫プロデュース事業、福島で始めたボランティア保護猫活動や、東京猫不動産という事業で猫と暮らすアパートの提供やモデルルームへの改装。学生ともコ

ライフスタイルも多様化する中で、特別な猫ビルを提案した背景には、①ビルの空き室率の上昇、②猫ブームの到来、③殺処分ゼロ千代田区、がある。ガラス張りの建物で誰でも出入りできるビル。公共施設として猫と触れ合える公園。近隣の誰もが利用できるスペースで、猫を仲介にしてコミュニケーションを実現し、千代田区を猫にも優しいまちのシンボルにする。

Q: オフィスには取引先も来る。困難では?

A: 確かに、猫を嫌いな人もいるが、既の実現しているので実際問題はない。

Q: なぜ猫なのか? 例えば犬ではだめか?

A: 犬には種類も多く、大きさも多様、犬好きの人の趣味は多岐にわたる。猫好きは趣味もほとんど一致する。意見の統一もし易い。



の建物が現在は取り壊され駐車場になったこと。努力しないと残らないと気がついた。築90年だが元気に百年を迎えさせたい。

この通りはかつて繊維問屋街で栄え、奇跡的に戦災を逃れた。1960年代はこういう建物がまだ並んでいたが、特にバブルの地上げで消えて行った。その頃放火され、一部は焼けたが、祖父が再建して今に残る。

こういう建物が残ることは千代田区の文化的歴史的問題として重要。海老原商店が百年を迎えれば他の建物にも残る可能性が生まれ、保存のモデルとなる。通りに面して間口が開かれた場所は人が入り易く、地域の交流に役立ちまちづくりに活用できる。

海老原商店は創業明治20年、初代は茨城県から出て来て古着屋として開業。その後、時代に合わせて仕事を変えてきた。当初は和服が多く、洗い張りなども流行った。関東大震災後は洋服に変わり、スーツを吊るして売り出す。戦後の朝鮮特需の頃は羅紗屋になり、反物を売る。

現在の建物は1928年関東大震災後に建て、大工ではなく黒沢さん

という画家がデザインした。それで建築家の藤森照信さんが『看板建築』と言う本を出した。

今回、これを整理、耐震補強や改修をして古材も活用しながら保存する。ガス管や水道等なるべく伝統的な工法で直したい。廃業した店舗部分は整備してまちのコミュニティスペースに解放。ワークショップにも利用できる。現代版参加型改修工事で、2階はゲストハウスやシェアハウスとして活用する。

看板建築や民家の再生活動拠点にもなり、地域への愛着、関心も高まる。

Q: 改修後も住まないのに固定資産税を払ったり、維持管理が大変。民宿(民泊)は新法でやるにもスケジュール的に間に合うか?

A: 法令も遵守する。新法で、京都の町屋の事例等を参考に何とか対応したい。

Q: 2階は畳で一間続きなのか? 1階はどのくらいの広さか? いつまで維持するのか?

A: 一応襖で仕切られている。1階は12畳くらい。何代にもわたり町中で活かしたい。

Q: シェアハウスを事業として、どのくらいの賃貸料金を考えているのか?

A: 宿泊は1人2万円、5人で10万円位。賃貸住宅としても考えてみる。

Q: 会のメンバーはどういう人達か?

A: 代表は私で、設計士、まちづくりグループの「としまち研」等が集まっている。



## 新田委員

### ■ 神保町未来会議・重ね図ワーキンググループ

神保町が書店街となったことについて不明確な点が多いことについて、その地域の古書店のメンバーが中心となり調査研究を重ね明らかにしていくことは、未来のまちづくりへの基礎的な考え方を形成することに役立つという主張は受け入れられていたと思います。今回の助成金の応募費用の半分以上が街歩き地図の印刷費となっていたことと活動の目的のつながりが少しわかりにくかったのではないのでしょうか。すでに専門家のサポートも得てデータベースも作っておられるので、市民レベルのまちづくりとのつながりが必要な活動でぜひ再挑戦していただきたいと思います。

### ■ 神田プロレス

本物を見ることによって得られる感動や興奮、そしてそれをきっかけとして地域の魅力をより発展させることができるのだという熱意が、公開審査会でのプレゼンテーションから十分に伝わってきました。地元密着で、お店を運営しているからこそ分かる地元っ子への熱意が伝わってきました。一過性のイベントに終わらせるのではなく、3年から自立後には、他地域のご当地プロレスとも連携し、お互いの商

店街を紹介し合うイベントも実施してみたいという具体的な活動目標があることは、活動を継続する上で重要なポイントになると思います。より多くのファンを獲得し、着実にチャレンジをし続けていただくことを願っています。

### ■ オクトパシー

今回、はじめて部門は1団体だけの応募でした。審査方法を協議し、書面で事前に審査を行い、公開審査会当日は、他の公開審査会に応募された団体のみなさんとのネットワーキングの機会として、申請内容を紹介するというものでした。お祭りの盛んな千代田区において、まちの人たちが持っているだろう8mmやVHSなどのアナログメディアに収録したまちの風景をデジタル化することによって、世代を超えた会話が增える機会をつくりたいというものです。活動をしながら、ネットワークを広げていきたいと発表され、今年度から、「千代田まちづくりプラットフォーム」がまちさぼ団体を継続的に支援するという事なので、大いにネットワークを広げていただくことを願っています。



## 中島委員

### ■ ユメラボ

10年以上の活動実績のある「空間構成の請負人」学生グループで、自分たちが学んでいるものづくりを通じてまちに貢献したいという純粋な思いがひしひしと伝わってきました。ただ今回はその肝心の空間構成の実践計画が甘く、審査会委員の支持が得られず残念な結果になってしまいました。とはいえ、商店街からマップづくりを依頼されたということは、千代田の中で確実にその存在が認められている証左です。地域に頼りにされるグループとして自信をもって活動を続けて、また来年度、この場でお会いできることを期待しています。

### ■ 神田組

神保町映画祭プロモーション作品を制作してきた実績のあるグループということで、審査会では大きな期待もってプレゼンを聞かせて頂きました。映画祭ムービー作成に留まらず、千代田の景観イメージビデオ制作、ロケーションサービス構築といった広がりのあるアイデアは、どれも実現したらいいなと思わせるものでした。しかし一方で、それらをどのようなスケジュールで、どのような地域、人びととつながりの中で生み出し、まちに還元していくのか、その構想が整

理されていないという印象を受けました。また、たった3分の短いプレゼンテーションですが、活動の核心である「映像」の内容をもう少し説得的に伝えて頂ければ、審査会委員の判断も変わったかも知れません。あらためて、応募書類やプレゼンの大事さを感じました。

### ■ 海老原商店を活かす会

今回新設された普請部門にとってはまさに「待ってました!」という企画でした。看板建築のリノベーションにあたって、専門家や地域を巻き込んだ非常に丁寧な取り組みをすでに始めておられて好感を持ちました。海老原商店をめぐる家族の物語、現代の「結」と表現されていた仲間たちとの物語、そして柳橋通りや神田という地域の物語、さまざまな物語を継承、共有、創造していく取り組みとなる可能性を高く評価します。

11月の二次審査では、その物語のもっと掘り下げた具体的な内容をじっくりお伺いしたいと思います。審査会委員の方も、今からわくわくしております。





## 片岡委員

### ■ 麹町小学校ワーク・わく・クラブ応援団

今回まちづくりサポートに初めて応募されたのに、活動実績は平成16年4月の設立そして年間15回程の企画を運営しているという実績からしてこのグループの底力を感じます。

活動主体は子供達で、大学生が子供達を見守り指導していく体制で運営されており、審査会のプレゼンでも今までにない、子供達主体で行われた事に審査会委員や会場にお集まりの関係者を驚かせました。

今回の活動テーマは子供目線で自分たちの町の良いところ・悪いところの調査や、子供達から提案されたテーマを大学生が助けまちづくりイベントで発表するなどいろいろな企画を実施していくそうです。2次審査では審査会委員全員の7票を獲得し期待が伺えます。成果の発表会が楽しみです。頑張ってください。

### ■ グリーンネイバーフッド千代田を目指す会

今回は「はじめて部門」にエントリーされ、エコ活動と在住在勤者を対象とした婚活を結びつけて活動された結果、エコ活動は順調に実施でき、活動を通じて出会った団体やイベント参加者との繋がりも出来た様ですが、婚活はそう簡単にはいかなかったようです。今回「一般部門」で助成を受け対象者を在住在勤者に加え学生や障がい者にも広げ、婚活までは活動を広げずエコ活動中心に活動をしていく方向に切り替えて活動をして行くという説明がありました。

具体案としては「千代田区内の再開発事業における環境取り組み勉強会」「環境まちづくりの事例勉強会」「グリーンマップづくりイベント」「ユニバーサル自然観察会」等を実施していくそうです。

前回の活動の成果や反省を踏まえて再度チャレンジをしに来てくれました。今後の活動に期待したいと思います。頑張ってください。



## 後藤委員

### ■ Sophia Information For Visitors

一年前から大学のOBや有識者からアドバイスを受けながら、上智大学の学生という立場で「まちづくり」に何ができるのか議論をかさねたという。災害時に語学力を生かして外国人を対象に避難誘導と情報発信を行なうというアイデアは百点満点だと思う。ただこのアイデアを机上のものとして、有事の際にはほんとうに生かせるシステム作りが大事だと思う。応募一年目の今年は情報収集と現状分析が大切だろう。

大学の公認サークルとして設立されたのでこの事業が先輩から後輩へと継続的に受け継がれていくことを熱望するとともに、いずれは区内のほかの大学(明治、法政、日大、専修、共立、大妻など)と連携して活動し、行政、大使館、ホテルなどと綿密に連絡体制を整えれば一つのモデルとして大いに評価されると思う。

### ■ 神田暮らし探検隊

昨年、何のツテもない「神田多町」に照準をあてて飛び込んできたグループ。マンションの増加で新住民が増える一方、古くからの住民は高齢化していく。そこに着目して新旧住民を結びつける手法を模索した。事前に文献や古地図などを収集して分析しただけであって十分な結果を残せたと思う。

そして2年目の活動となる今年は子供に焦点をあてて対象地域も「多町」から「千代田小学校校区」へ広げて、20年後の担い手を育てていく活動をするという。プレゼンも的を絞ってまとめ、模造紙に書かれた絵も効果的だった。ただ同じ研究室の仲間だけで活動するのではなく地域住民を活動メンバーに加えることができれば違った目線で町が見えてくるのではないと思う。



## 江口委員

### ■ 神保町コミュニティプラザ

昨年は、当初予定した神保町ガイドツアー等に留まらず、様々な取組を行うなど非常に高い成果を挙げられました。今回、2年目の応募となりましたが、「夏目漱石」という神保町の資源を活用した謎解きツアーなどは大変素晴らしい企画であり、新しい来訪者の取込みなど、地域の活性化に繋げてほしいと思います。また、企画も素晴らしいのですが、事前調査・分析をしっかりとされており、これが成功に繋がっているのだと感じました。

様々な活動を実施しており非常に負担も大きいと思いますが、今回の発表では、みなさんが楽しんで活動している様子が伝わってきました。引き続き、コミュニティプラザ設立という目標に向かって頑張ってください。

### ■ PCN 秋葉原 Assemblage

秋葉原は、アニメやインバウンド需要が非常に活況なイメージがありますが、一方で、家電・パソコン・電気部品店は、今年に入り5店舗も減少しているということには非常に驚かされました。

このような背景があり、子供達に「電気街としての秋葉原」で電子工作・プログラム体験を経験してもらい、秋葉原ファンになってもら

うことから始めたいという想いが、非常によく伝わってきました。これからの教育の基本は「読み・書き・そろばん・プログラミング?」ということで、戦後から続く秋葉原高架下の電子部品街が活性化できるよう頑張ってください。今後の活動に期待しております。

### ■ 神保町映画祭実行委員会

今回は、昨年に引き続き2年目の申請となりました。昨年は助成を受けることができましたが、助成額が大幅に減額となってしまったグループの1つでした。そのため、審査会委員の中にも活動を不安視する意見もありましたが、第1回神保町映画祭には163作品もの応募があり来場者も500名以上という結果を残すなど、期待以上の成果を挙げておられました。

今後は、ネットワークを充実させ千代田区や他団体等との連携を深めるなど、地域に根差した団体となることを目指してほしいと思います。また、課題である組織体制や自立できる仕組みを早急に構築し、1日も早く継続した運営ができる体制となることを期待しています。



## 朝比奈委員

### ■ 世界に広めるらくがきPROJECT

空の下で地面にすわって自由に描く“らくがき”は、子どもだけでなく大人にも魅力的に映ります。らくがきに参加した共通体験は、世代を越えていろいろな人びとがつながる機会にもなるでしょう。開催する幼稚園や学校にとって、らくがきのイベントを通して、日常にはない人との出会いが生まれると（それは地域の人同士もあると思いますが）、なお喜ばれるのではないかと思います。たとえば、PTAなど幼稚園や学校の周囲のみなさんにはたらきかけ、企画や準備からかわってもらい、一緒に開催していく方向も模索できるといいと思います。

加えて、活動資金など今後の協力を広く得ていくためには、活動をアピールできる素材（活動中の映像や写真、参加者のインタビューなど）を普段から集め、プレゼンテーション用の映像やアルバムなどを編集しておくことをぜひ、すすめてください。

### ■ 千代田ネコビルlab

犬や猫を介してご近所同士がつながる話は耳にしますが、「猫」をテーマに地域の拠点をつくらうという提案は、とても新鮮でした。今後の検討課題のうち、最優先は所有者に賛同を得て対象物件を確定させること。それには、周辺の理解や協力をどのように広げていくのか、所有者や関係者が納得のいくプロセスのプランニングが欠かせないでしょう。審査会でも指摘されたように、ここで働く人、仕事のために訪れる人、猫パークを利用する人、そして近隣住民、それらの人びととの良好な関係は、空間づくりの段階から工夫が考えられてこそ生まれると思います。そしてそれが、完成後の運営体制にも発展していくのではないかと思います。猫好きだけでなく、対象物件の周辺のみなさんも心待ちにするような、コミュニティスペースの提案を期待しています。



## 小川委員

### ■ 文人通りギャラリーカフェ

昨年のランチ会の実績を活かし、今年は、番町文人通り周辺のマンション居住者のための交流の場として、1回1棟のカフェの会や合同のカフェの会を開催するという活動で、マンション内をはじめ地域との交流も目指す意欲的な取り組みで高く評価できます。

また、マンションごとにその土地にまつわる文化人をテーマにしており、まちへの愛着が生まれることが期待されます。周知方法もチラシや知人の口コミなど、住民ならではの力が発揮されるものと思います。文人通りで住民同士の顔見知りが増えていくことを願っています。

なお、一般部門ではありますが、区が設けたテーマ部門「ちよだマンション・カフェ」にまさにぴったりの活動で、連携させていただけることですので、よろしくお願いたします。

### ■ 内神田を面白がる会

テーマ部門「ちよだマンション・カフェ」の応募で、地域コミュニティにどうすれば関心が高くなり、自発的に積極参加できるのか議論しあう場とランチ会を内神田のシェアハウス・シェアオフィスのラウンジで開催する活動で、調布市での実績もあり期待が持てます。

一方、内神田の何が面白いと思っているのかは、まだ具体的にイメージを持っていないとのことで、不安もありますが、これから地域に入って勉強していただくとよいと思います。区も、町会・商店会等との顔つなぎや連携など支援いたします。試行錯誤しながら、隣人として「顔の見える関係性」を構築できればと、期待しています。





## 【総評】 審査会会長 新田 英理子

皆さん、丸一日お疲れさまでございました。

午前中の発表をお聞き頂いて、皆さんご自身もいろいろ感じられたことでしょう。

千代田まちづくりサポートの意義というのは、「市民の自主的、積極的な活動を支援する」ということに尽きます。

その活動として相応しいと思われる団体を選んでいくことです。しかも、公開審査会という形で、自由に参加された皆さんの前でオープンな形で、助成金額も含めて決定して行くわけです。ここに大きな特色があると言えるでしょう。

審査会委員が7人いるということも、其々の視点で考えて選ぶということに意味があり、評が割れることも当然あるわけで、それも大事なことであると考えています。その上で、更に質疑応答もあり、議論もあって判断した結果での最終決定です。

残念ながら今回は選定に至らなかったグループの方もおります。ですが、前向きに捉えられて、以上のことを御理解いただければと思っております。どうぞ、今日の皆さんとのやり取りを参考にされて、また計画を再検討するなどして、ぜひ次の機会に参加して頂ければと存じます。

さて、私自身も千代田区大手町に事務所がありまして、日頃、そこで市民活動をしているのですが、なかなか普段の活動だけでは出会えない方と、この千代田まちづくりサポート事業の公開審査会を通して知り合うことができます。

きっと皆さんも、真剣に議論する場を体験し、多くのことに気づかれたり、新しい出会いやネットワークの場でもあることを実感された

ことと思います。

こうして、ポストイットを貼ったり、やりとりの時間の調整や展示物等の並べ方もいろいろ工夫して頂いております。そのような陰の地道な支えがあつてのことだと、深く感謝しております。

今回初めてご参加下さった方は、これがスタートですし、殊に出会いや発見が多くありだったろうと思います。2回目で参加された方は、1回目の参加の時に、こんなふうに声をかけて頂いて嬉しかったとか、こういうふうにしたらもっと良かった等ということや、顔見知りになった初めての参加者の方に、ぜひ、伝えて頂けたらうれしいと思います。

そうすることで、また人の輪や活動が繋がっていきます。今回は第16回ですので、この千代田のサポート事業はどんどん広がっているし、時と共に歩んで世代交代もしたりしております。そうして、更に活動や人脈をつなげて、これからも引き続き持続していけたらと、私自身は願っております。

今度の中間発表会は11月と日程がすでに決まっております。詳しくは、皆さんに事務連絡が後日あると思いますが、勿論、私達はその中間発表会に参加します。皆さんの発表を楽しみにしております。ぜひ、またそのような折にでも、もし、困ったこと等がありましたら、横のつながりでも解決できることがあれば、積極的に行動して頂けたら、すばらしいと思います。

今日は、本当にありがとうございました。

そして、皆さん、ご苦労さまでした。

## 第16回千代田区まちづくりサポート 審査評

部門	回数	団体名	一次審査			二次審査	申請額 (万円)	助成額 (万円)
			★活動内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える。	■活動企画内容についてももう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい。	▲意義ある活動だが、サポート助成の趣旨にはなじみにくいと考える。	●活動内容を支持する		
一般	2	ユメラボ		■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ▲		●	23	0
一般	2	神保町コミュニティプラザ	★ ★ ★ ★ ★	■ ■		● ● ● ● ● ● ●	50	50
一般	2	神田暮らし探検隊	★ ★ ★ ★ ★	■ ■		● ● ● ● ● ● ●	22	22
一般	2	神保町映画祭実行委員会	★ ★ ★ ★	■ ■ ■		● ● ● ● ● ● ●	50	50
一般	1	麹町小学校ワーク・わく・クラブ 応援団	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★			● ● ● ● ● ● ● ● ●	20	20
一般	1	Sophia Information For Visitors	★ ★	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		● ● ● ● ● ● ●	48	32
一般	1	神保町未来会議・重ね図ワーキンググループ	★	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		●	50	0
一般	1	PCN 秋葉原 Assemblage	★ ★ ★ ★ ★	■ ■		● ● ● ● ● ● ● ● ●	35	35
一般	1	神田組		■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ▲			50	0
一般	1	グリーンネイバーフッド千代田を目指す会		■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		● ● ● ● ● ● ●	33	33
一般	1	文人通りギャラリーカフェ	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★			● ● ● ● ● ● ● ● ●	30	30
一般	1	神田プロレス	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★			● ● ● ● ● ● ● ● ●	50	50
一般	1	世界に広めるらくがきPROJECT	★	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		● ● ● ● ● ● ● ● ●	22	22
テーマ	1	内神田を面白がる会				● ● ● ● ● ● ● ● ●	50	40
						一次審査		
普請	2	千代田ネコビル lab				● ● ● ● ● ● ● ● ●	10	10
普請	2	海老原商店を活かす会				● ● ● ● ● ● ● ● ●	10	10
はじめて	2	オクトパシー				※書類選考・当日参加	5	5

## ■ 一般社団法人千代田まちづくりプラットフォームについて

公益財団法人まちみらい千代田は、千代田まちづくりサポート事業（以下、まちサポ）を通して、市民のまちづくり活動の更なる普及と拡大を図るという事業目的を達成するため、一般社団法人千代田まちづくりプラットフォーム（以下、まちプラ）と運営に関する協働契約を締結しました。まちプラの社員は、まちサポで過去に助成を受けた団体の代表、メンバー及び委員で構成されています。まちサポに精通しているため、企画、各審査会、発表会の運営はもちろんのこと、助成グループの相談対応、交流会の運営まで行います。今後、千代田区のまちづくり、まちサポにおいても重要な役割を担っていただけると思っています。



運営をフォローする「まちプラ」

また、新たに設立した「普請（ふしん）部門」は「地域のまちづくり活動の拠点づくり」、「歴史的建造物」、「地域の小スペースを活用した造作をともなったまちづくり活動」に対して助成を行う部門ですが、整備提案によっては、専門的知見が必要となる場合もあります。まちプラの社員には、これらの知識、資格を有する社員も在籍しているため、申請グループ及び助成グループに的確なアドバイスを行ってくださることを期待しています。



公開審査前の打ち合わせ

本年より協働事業としてスタートしましたが、互いに協力、分担することで質の高い事業活動とし、千代田のまちづくり活動にまちプラとともに寄与できればと思います。

また、新たに設立した「普請（ふしん）部門」は「地域のまちづくり活動の拠点づくり」、「歴史的建造物」、「地域の小スペースを活用した造作をともなったまちづくり活動」に対して助成を行う部門ですが、整備提案によっては、専門的知見が必要となる場合もあります。まちプラの社員には、これらの知識、資格を有する社員も在籍しているため、申請グループ及び助成グループに的確なアドバイスを行ってくださることを期待しています。

■ この事業で交付される助成金の一部は、公益財団法人まちみらい千代田区の賛助会員の方々によって支えられています

### 公益財団法人まちみらい千代田 賛助会員一覧（敬称略）

平成28年9月現在

【法人会員】		【個人会員】		
業種	会員名	業種	会員名	
金融	興産信用金庫	その他	飯塚 克治	
	西武信用金庫 神田支店		池 俊 郎	
	(株)東京都民銀行 神田支店		浦 田 泉	
	(株)東日本銀行 飯田橋支店		大 塚 茂	
	みずほ信託銀行(株)		加 藤 武 夫	
建築土木	(株)エコ・24		(株)i-tec24	小 林 勝 彦
	(株)久保工		(株)イサミヤ	小 林 誠
	(株)竹中工務店		ウェブリオ(株)	瀬 川 昌 輝
	(株)ナカノフドー建設		(有)エイアイ企画	立 山 光 昭
建設設計	(株)アズ・リノベテック		(株)エス・エー・ピー	戸 田 豊 重
	(株)楠山設計		大塚製薬(株)東京支店	二 木 憲 一
	(一社)改修設計センター		(株)弘周舎	堀 部 剛 正
	(株)翔設計		ゴージャージャパン(株)	三 浦 博 子
	(一社)東京都建築士事務所協会千代田支部		(株)こどもの館	宮 園 耕 二
	パシフィックコンサルタンツ(株)		(株)コンベンションリンケージ	三 輪 瑛 子
緑花・環境	日産緑化(株)		鈴新(株)	他6名
	(株)日昇緑化研究所		(株)すららネット	
広告代理	(株)フィレール		瀬味証券印刷(株)	
不動産	エヌティティ都市開発(株)		(株)TALO都市企画	
	協永ソフトエンジニアリング(株)		東洋美術印刷(株)	
	住友不動産(株)		(株)巴商会	
	天翔ビルディング(株)		(株)日精ピーアール	
	プラットフォームサービス(株)		(株)ネットビジョン	
	三井不動産(株)	(株)バイオレンジャーズ		
	三菱地所(株)	ハネクトーン早川(株)		
	安田不動産(株)	(株)ヒューネルエフイーエー		
	IT関連	(株)メディアリンク	(株)フォトロン	
		(株)パシフィック総合開発研究所	(株)フロンティアコンサルティング	
コンサルタント	NPO法人都市住宅とまちづくり研究会	富士ゼロックス(株)		
	(株)パシフィック総合開発研究所	フジマイクロ(株)		
		(一社)マンション管理組合支援センター		
		三喜産業(株)		
		ヨシモトポール(株)		

(法人:57 個人:21 計:78)